

人口減少対策特別委員会

自然減対策について

安田 佳世



はじめに...

自然減対策について

結婚をすること、子どもを産むことへの支援が必要となりますが、結婚・出産をしようかなあと漠然の考えている人や結婚・出産をどうしようか悩んでいる人に対して、「それならやってみよう」と後押しするような施策が大切だと考えます。

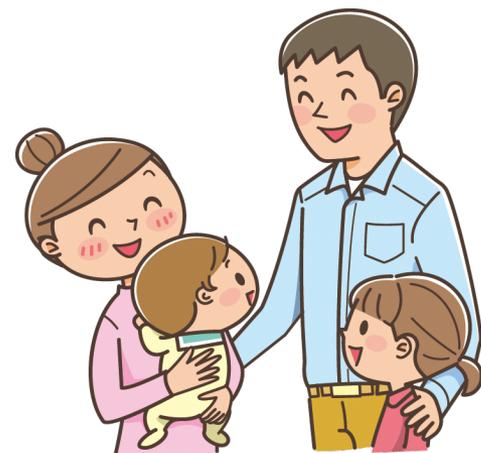
委員会の活動として

委員間で議論をした後、提言に向けて、委員会として若者世代・子育て世代との意見交換会ができるとよいと思います。

自然減対策として取り組むべきこと

結婚を希望する人への支援

- (1) 出会いの場づくりを行う。
- (2) 婚活事業を行う団体や事業所を支援する。
- (3) 結婚祝い金制度をつくる。



出産を希望する人への支援

- (1) 不妊不育治療費助成を拡充する。
- (2) 不妊不育治療費助成事業等について、結婚する時に情報提供する。

子育て支援

- (1) 子育てに関わる様々な情報をよりわかりやすく見える化する。
- (2) 子どもをもつ親がつながることのできる場を増やす。
- (3) 子育てに関する祝い金制度をつくる。
- (4) 産休育休や子育てを支援する事業所に対して支援を行う。

結婚を希望する人への支援（1）

出会いの場づくりを行う

上越市若者世代・子育て世代の市民アンケート調査報告（令和元年9月）を見ると...

- ・将来結婚したいと考えていますか。 82.7%
- ・結婚していない理由1位 適切な相手にめぐり合っていないから 48.8%
- ・出会いを求めるときにどんなことをしたか1位 何もしなかった 46.0%
- ・どのようなことを新たに行いたいか1位 特に何もしない 31.8%
- ・どんな支援があったらよいか1位 出会いの場づくり 58.0%

→結婚はしたいと思っているが、適切な相手にめぐり合っていない人が多い。

結婚したい人が望む支援は、出会いの場づくり。

→しかし、出会いを求めて何かをするにはハードルが高い。

「結婚」が全面に出ていると参加しにくいのではないか。

（シャイで控えな上越人の特性？安田私感）

🌻結婚を希望する人が自然に出会うことのできる場やイベントをつくる。

🌻上越市が率先して、「ぜひ上越市で結婚しよう！素敵な相手と出会おう！」という思いで積極的に取り組むことが必要。上越市で生活することの魅力を伝える。

🌻例えば、上越の楽しいところをみんなで巡る魅力再発見ツアー（うみがたり、星のふるさと館、海、スキーなど）や、メイド・イン上越を味わう試食会、上越のお酒飲み比べ会など、婚活を全面に出さずに楽しく出会える場をつくれると良い。

結婚を希望する人への支援（2）

婚活事業を行う団体や事業所を支援する

- ・ 出会いの場づくりの必要性は前スライドの通り。
- ・ 上越市若者世代・子育て世代の市民アンケート調査報告（令和元年9月）を見ると...
どんな支援があったらよいか 町内や職場など身近で結婚を仲介する人を増やす取組 14.8%
- ・ 現在実施している上越市の事業 地方創生推進事業補助金（提案モデル型）
「自然な出逢い等を目的とした若者世代の交流の機会を創出する取組」をテーマに民間団体等が主体的に実施する取組を支援する。補助対象経費の4分の3を支援。上限額375,000円。

→**出会いの場が少ない**。出会いの場をつくる活動が行われていない。

→**結婚を勧める事業所や、従業員同士の結婚を支援する事業所が増えれば**、結婚できる人も増えるのではないか。

🌻自由な発想で婚活事業を実施する団体や、婚活に関するノウハウを持っている団体が実施する**婚活事業について、経費の補助を行う**。

🌻婚活事業や結婚への支援を行う事業所に対して、経費の補助を行う。

🌻上記の経費補助について、現在の地方創生推進事業補助金の一つとしてではなく、**婚活事業支援補助金として婚活支援に絞って実施する**。

結婚を希望する人への支援（3）

結婚祝い金制度をつくる

・ 上越市若者世代・子育て世代の市民アンケート調査報告（令和元年9月）を見ると...

結婚していない理由 結婚後の生活資金が足りないと思うから 23.1%

結婚資金が足りないから 16.0%

将来、結婚生活を送るとした場合に不安に思うこと1位

経済的に十分な生活ができるかどうか 55.6%

・ 全国を見ると、結婚の際に祝金や記念品を出している自治体も多い。

祝金の額は、5千円や50万円など、自治体によって様々。

→結婚を考えるときに、結婚に関する費用や結婚後の生活資金等の経済的な心配がある。

🌻上越市民が結婚する際に、一定期間は市内に居住することを条件に、結婚祝い金を支給する。

出産を希望する人への支援（1）

不妊不育治療費助成を拡充する

- ・子どもを産みたくても、不妊や不育に悩む夫婦も多い。
また、不妊治療や不育治療には、多額の費用がかかる。
- ・上越市若者世代・子育て世代の市民アンケート調査報告（令和元年9月）を見ると...
妊娠・出産支援について強化してほしい取組 不妊不育治療に関する取組の充実 26.8%
- ・現在実施している上越市の事業 不妊不育治療費助成事業
不妊不育治療検査及び保険診療費の一部負担金、保険適用外医療費の自己負担分、
薬局で処方された薬の自己負担分を助成する。助成率5割、上限額10万円、年1回まで。
令和2年度実績見込みは370件。
- ・上越市だけでなく、国や県の助成事業もある。

→子どもを産みたい人の経済的負担をより軽減する必要がある。

→国や県、また他自治体の事例についても調査研究し、適切な金額や回数等を検討することが必要。

🌻現在実施している不妊不育治療助成事業について、上限額や回数等を拡充する。

出産を希望する人への支援（2）

不妊不育治療費助成事業等について、 結婚する時に情報提供する

- ・上越市若者世代・子育て世代の市民アンケート調査報告（令和元年9月）を見ると...
上越市では不妊治療費や不育治療費に対して助成があることを知っているか。

あまり知らない22.6% 全く知らない43.5% → 計66.1%

- 事業を実施しているが、市民に知られていないのではないか。
- もし知っていれば、子どもを産むためにもう少し頑張ってみようという気持ちへの後押しになるのではないか。
- 結婚後の生活や、子どもを産むこと、子育てをすることについて、早いうちから情報を得ることが、自分自身のライフデザインや将来の見通しのためにも大切。

 不妊不育治療費助成事業など上越市が行っている出産や子育ての支援について、
婚姻届の受付時など、結婚をした時に情報提供を行う。

子育て支援（1）

子育てに関わる様々な情報をよりわかりやすく見える化する

- ・社会の変化もあり、**子育てを見たことが無い、知らない**という人が増加。

一方で、情報化により誰でも様々な情報にアクセスすることが可能な時代になった。

- ・現在実施している上越市の事業

「上越市子育て応援ステーション」HP・子育てに関するハンドブック「じょうえつ子育てinfo」の発行

→**子育てに関する情報が少ない**ことで、**子育てに対する漠然とした不安がある**のではないかと。それによって、子どもを産むことをためらう可能性があるのではないかと。

→上越市は、非常に多くの子育て支援事業を行っており、子どもを安心して産むことができる場所である。しかし、**その充実が市民に伝わっていない**のではないかと。

→実際に子どもを産んだり、当事者になったりすると、支援を受けることができる。それまで知らなかったというのはもったいない。**事前に知っておくことで、子育てをする生活をイメージでき、それなら子どもを産もうという選択に繋がる**のではないかと。

🌻例えば「じょうえつ子育てinfo」を結婚した時に配布するなど、**子育てに入る前の早い時期から情報提供を行う**。また、上越市が行っている子育て支援についてより積極的な情報発信を行う。

🌻子育てをする生活がイメージできるように、またライフデザインが描けるように、**子育ての経過に沿った情報提供を行う**。例えば、HP上のライフステージ別案内をわかりやすくする、簡易的なパンフレットにするなど。

🌻妊娠から乳幼児期だけでなく、子どもが小学生・中学生など大きくなった時の支援や市内の状況なども詳しく加え、**切れ目のない子育て支援について、一層の情報発信を行う**。

子どもをもつ親が つながることのできる場を増やす

- ・子育てに関する悩みや不安を抱えている親は多い。
- ・幼稚園、保育園選びや学校区、子どもの遊び場など、様々な情報について、他の子どもをもつ親がどう思っているのか、知りたい人が多い。
- ・直接会って話をする以外に、ネットなどの情報を頼る人も多い。上記の情報について、ネット上でクチコミや親の声をすることは難しい。
- ・現在実施している上越市の事業

子育てひろば23か所、こどもセンター2か所

- 日々の悩みや不安を話せる場所が、もっと必要なのではないか。オーレンプラザこどもセンターは、利用者が非常に多い状況である。
- ネット上で親同士が繋がったり、親の声を知ることができる場が有効ではないか。

🌸こどもセンターを増設する。

🌸ネット上に親の声を投稿したり、情報交換をしたりすることができる場をつくる。

子育て支援（3）

子育てに関する祝い金制度をつくる

- ・ 上越市若者世代・子育て世代の市民アンケート調査報告（令和元年9月）を見ると...

子どもをもつ上で問題になると感じていること 1位

子育てや教育にお金がかかりすぎる 79.9%

妊娠・出産支援について強化してほしい取組 1位

妊娠・出産に伴う費用の補助 63.0%

子育てをする上で、不安に思っていることや悩んでいること 1位

子育てで出費がかさむ 61.1%

- ・ 全国を見ると、出産祝金や成長祝金を支給している自治体もある。

→子どもを産み、育てることには多くの費用がかかり、それに対する不安が大きい。祝い金等の支給により経済的負担を軽減することで、子どもをもちやすくなるのではないか。

→子育ては長期間に渡ってお金がかかることから、出産時の一時的なものではなく、入園時（年少）、小学校入学時など数回にわたって支給するのが良いのではないか。

🌻例えば出生時・入園時・小学校入学時など、複数回の子育てに関する祝い金を支給する。

子育て支援（４）

産休育休や子育てを支援する 事業所に対して支援を行う

- ・上越市若者世代・子育て世代の市民アンケート調査報告（令和元年９月）を見ると...

<u>子どもをもつ上で問題になると感じていること</u> 2位	自分の仕事に差し支える	23.6%
<u>妊娠・出産支援について強化してほしい取組</u> 2位	産前・産後休暇の充実	46.1%
仕事と子育てを両立する上で大変だと感じる	子どもと接する時間が少ない	42.4%

- ・仕事をしていると、産休育休が取りづらかったり、他の従業員に迷惑を掛けるのではないかと不安があったりする人もいます。

→気持ちよく子育てをしながら、気持ちよく働ける環境を整えることが必要。仕事を続けたいから子どもを産むことを諦めるという選択にならないようにする。

→そのためには、産休育休を取ったり、子どもの用事で仕事ができなかったりすることに対するフォローが必要。

→本人への支援ではなく、それを推奨する事業者に対して支援を行うことで、仕事と子育てを両立できる職場環境整備が進むのではないかと。

🌻産休育休や子育てを支援する事業所に対して、従業員が仕事を外れる際に代替えとする人員に係る費用を補助する。

🌻男女問わず育休や子育ての支援を行うことで、男性の育児参加や家庭内の子育て負担軽減に繋げる。